
慢性看護学特論

Chronic Care Nursing

1 年次前期・選択

2 単位・30 時間

辻 あさみ 教授

鈴木 幸子 非常勤講師

【概要・目標】

慢性疾患と共に生きる人々への看護アプローチについて基礎となる概念について学び、実践と研究への適応を探究するとともに、慢性疾患と共に生きる人々と家族の反応や療養行動の特性、生活に及ぼす影響を社会的心理的に探究する。

【授業内容・スケジュール】**(担当)**

1. オリエンテーション・慢性看護の概念 (講義) (辻)
2. 慢性疾患の特徴・慢性的な健康問題をもつ人々とその家族の特徴 (講義) (辻)
3. 慢性看護学を学ぶ上で基盤となる看護理論と概念 (講義) (辻)
4. 慢性看護領域における文献検討ならびにディスカッションをとおして、慢性疾患とともに生きる人々と家族についての理解 (辻)
<以下の理論について演習と講義を行う>
5. 「慢性疾患の病みの軌跡」理論 (講義) (鈴木)
6. 「慢性疾患の病みの軌跡」理論 (演習・講義) (鈴木)
7. QOL の概念 (演習・講義) (鈴木)
8. セルフケア理論、セルフマネジメントの概念 (演習・講義) (辻)
9. コンプライアンス、アドヒアレンスの概念 (演習・講義) (辻)
10. エンパワメントの概念 (演習・講義) (辻)
11. 自己効力感 (セルフエフィカシー) の概念 (演習・講義) (辻)
12. 不確かさの概念 (演習・講義) (辻)
- 13, 14. 慢性疾患専門看護師の役割と看護の実践 (講義) (辻)
15. まとめ (演習・講義) (辻)

【評価】

演習等参加態度 (50%) プレゼンテーション (30%) プレゼンテーション (内容) (20%) から総合的に評価する。

評価責任者：辻あさみ

【テキスト】

適宜講義内で紹介する

【推薦参考図書】

適宜講義内で紹介する

Pierre Woog ed 黒江ゆり子他訳：慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護モデル、医学書院、1995.

【その他】

演習は、学生主体によるプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。

連絡先：tsuji-nc@wakayama-med.ac.jp (辻)